

2003 ミニディスクロージャー誌



へ
み
ず
に
つ
い
て
。
ほ
い
く

〈みずほ〉は、
 金融サービスのさまざまな分野で、
 国内トップクラスの実績をあげています。

■家計の金融ニーズにお応えする

- 個人預り資産残高 **33**兆円(邦銀第1位)
- 居住用住宅ローン残高 **9**兆円(邦銀第1位)
- 会員制サービス 契約者数 **706**万人(邦銀第1位)
- 遺言信託 受託件数残高 **9,653**件(業界第1位)



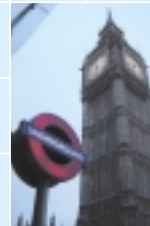
■法人の金融ニーズにお応えする

- 日本を含むアジア太平洋地域シンジケートローン
 組成実績 **369**億ドル(国内外金融機関第1位)^{※1}
- 国内普通社債(SB) 主幹事関与額 **8,000**億円(業界第3位)
 (銀行債・自己募集・個人債を除く)^{※2}
- 財投機関債 主幹事関与額
5,055億円(業界第1位)^{※2}
- 日系対象M&A(公表ベース)
 仲介実績 **87**件(業界第2位)、**69**億ドル(業界第3位)^{※1}
- 投資顧問 国内年金資産残高 **4.7**兆円(業界第1位)^{※3}
- 金銭債権・不動産信託等 流動化受託残高 **6.1**兆円(業界第1位)^{※4}
- 退職給付信託 受託残高 **1.2**兆円(業界第1位)^{※4}



■グローバルビジネスを支える

- グローバルプロジェクトファイナンス
 アレンジャー実績 **2,367**百万ドル(邦銀第1位)^{※1}
- 外国人投資家保有円カストディ
 預り資産残高 シェア **45**%(邦銀第1位)^{※4}
- 外為円決済
 受託件数 シェア **34**%(邦銀第1位)^{※4}



※いずれも平成15年3月末日現在。

※1 平成14年1月~12月 ※2 平成14年4月~平成15年3月 ※3 平成14年12月末日現在
 ※4 平成15年3月末日現在 ※実績はいずれも、2行合算(みずほ銀行、みずほコーポレート銀行)
 等、グループの実績となっています。数値はいずれも概算です。

みずほフィナンシャルグループの ディスクロージャー方針

自主的・積極的なディスクロージャーを
推進しています。

〈みずほ〉は、わが国を代表する総合金融グループとして、広く社会から信頼されることを目指し、国内外における多数のお客さま・株主・投資家のみなさまが当グループの実態を正確に認識・判断できるよう、適切な情報開示に努めることを経営上の最重要課題の1つに位置づけています。

さらに、グローバルな金融市場において、「新時代をリードする革新的なフィナンシャルグループ」となることを目指しており、継続性のあるディスクロージャーを適時・適切かつ公平に行うことにより、グローバルスタンダードにてらしても、透明度の高い経営を目指しています。

以上のようなディスクロージャー方針をふまえ、このたび〈みずほ〉について、よりコンパクトにわかりやすくまとめたミニディスクロージャー誌を作成いたしました。

本誌のほかにも、ディスクロージャー誌、アニュアルレポート等の印刷物やホームページ上に、〈みずほ〉に関する最新情報を掲載しています。

詳しい情報をお知りになりたい方は、ぜひホームページへアクセスしてみてください。



URL: <http://www.mizuho-fg.co.jp/>

2003 ミニディスクロージャー誌

C o n t e n t s

社長からみなさまへのごあいさつ ～「今年の結果を出す1年です」～	4
Q&A 〈みずほ〉の現状についてお答えします。	7
〈みずほ〉の平成14年度の財務ハイライト	16
トピックス	18
What's Mizuho 〈みずほ〉とはこんなグループです。	21
〈みずほ〉の社会貢献活動・環境への取り組みについて	32
CS向上への取り組みについて	35
〈みずほ〉の沿革	36

今年 は 結果 を 出す 一年 です。



前田 晃伸

MAEDA TERUNOBU

みずほフィナンシャルグループ
取締役社長

平素より私どもみずほフィナンシャルグループをお引き立ていただき、誠にありがとうございます。

新しいグループ経営体制への移行

当グループは、昨年4月1日、個人および国内一般事業法人とのお取引を中心とするみずほ銀行と大企業および海外企業とのお取引を中心とするみずほコーポレート銀行の2行を発足させ、持株会社のもとで、これら2行とみずほ証券、みずほ信託銀行の計4社

を中核とする体制をスタートさせました。

その際に引き起こしましたATM障害や口座振替の事務処理遅延等につきましては、多くのお客さまに多大なご迷惑をおかけしましたことをあらためて深くお詫び申し上げます。このような事態を二度と起こさないよう、全社一丸となって再発防止に取り組むと同時に、さらなるサービス向上に努めております。

発足以来、抜本的な経営の革新のためのさまざまな施策を立案・実行してまいりましたが、本年3月には、グループ総合金融サービスを飛躍的に向上させると同時に、安定的な収益力を確立するため、グループ経営体制の再編を実施しました。さらに、本年度は、企業再生に特化した再生専門子会社4社および国内外の最先端のノウハウを備えた再生アドバイザー会社を設立し、「企業再生の早期実現」および「信用創造機能の一段の強化」を同時に推進する「みずほの『企業再生プロジェクト』」に取り組んでおります。

財務上の課題一掃と自己資本の充実

当グループは、財務上の諸課題に一気めどをつけるため、昨年度中に最大限の財務上の手当を行い、資産の健全性を飛躍的に向上させました。

第一に、不良債権問題の早期解決のため、専門部署による企業の再生・支援や最終処理の前倒しを徹底するとともに、引当水準の強化により、今後の資産劣化リスクへの対応を行いました。

第二に、保有株式リスクが銀行経営に与える影響を削減するため、市場売却に加え日銀の株式買取制度等の活用や、保守的な減損処理の実施により、みずほ銀行・みずほコーポレート銀行・みずほ信託銀行の3行合算で約3兆円の株式残高を圧縮したほか、子会社・関連会社株式等の含み損処理も実施しました。

第三に、繰延税金資産については、昨今の厳しい経済・金融環境をふまえた保守的な前提に立ち、みずほ銀行・みずほコーポレート銀行の2行合算で評価性引当額を昨年度下期中に9,667億円増額することにより、それに見合う繰延税金資産の計上を見送っております。

このような財務上の課題一掃による自己資本の減少に対処する観点より、当社は本年3月に国内のお取引先等を引受先とした1兆819億3,000万円の優先株式発行による自己資本調達を実施し、その結果、前年度末の当社グループの連結自己資本比率（国際統一基準）は9.53%を確保しました。

サービスの飛躍的向上と収益力の強化

当グループでは、グループシナジーを最大限に発揮し、お客さまのニーズにあった利便性と専門性を高めた商品・サービスを迅速に提供することで、収益力の極大化に取り組んでおります。

また、徹底したリストラによるコスト構造の改革を加速させるため、従業員数の大幅な削減や店舗統廃合の前倒しに加え、役職員の処遇水準の見直しまでふみ込んだ経営合理化策を実施しております。一方で、若手層の早期育成と積極登用のための30歳代を対象とした支店長公募制や、早期退職促進プランの導入等を実施し、組織の大幅な若返りを実現しました。

本年度は、お客さまへのサービスの飛躍的向上と競争力や収益力の強化に総力をあげて邁進し、みなさまからいただいたご支援・ご期待にお応えすべく、「結果」を出す一年にしたいと考えております。引き続き一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成15年9月

株式会社 みずほフィナンシャルグループ

取締役社長

前田 晃伸

〈みずほ〉のブランドステートメント およびブランドロゴについて

ブランドステートメント

Value Communication

Valueは「お客さまが求める価値」、Communicationは「お客さまとともにわかちあうこと」を表わしています。

Value Communication（バリューコミュニケーション）には、「お客さまのビジョンを理解し、親身な姿勢と質の高い提案できちんとお応えする。それによりお客さまの満足度を高め、喜びをともにわかちあうこと」という意味が込められています。一言でいえば「**お客さまの夢や喜びを、お客さまとわかちあうこと**」です。

ブランドロゴとブランドカラー



ブランドロゴは「みずほブランド」を象徴する新しいシンボルマークです。

シンプルで洗練されたロゴタイプ（字体）と動きのある赤い円弧によるデザインは、今まさに太陽が昇らんとする地平線をイメージしたもので、社員一人ひとりの強い意思と情熱を表しています。

ブランドロゴには、2色のブランドカラーを使用します。

コズミックブルー（青色）は、信頼、誠実、ワールドスケール、クオリティを、ホライズンレッド（赤色）は、お客さまとのリレーションシップ、ヒューマニティ、情熱を表しています。